



**Daniel Gaede**  
1966年、ハンブルク生まれ。ベルリンでトーマス・ブランディス、スイスでマックス・ロシュタル、アメリカでジョセフ・ギンゴールドに師事。83年、ロンドンのカール・フレッシュ・コンクールで第1位。ベルリン芸術アカデミーよりヨーゼフ・ヨアヒム賞を受賞。92年、カーネギーホールでリサイタル・デビュー。94年から2001年まで、ウィーン・フィルのコンサートマスター。2000年、新設のデュルンベルク音楽大学教授に就任した。

霧島国際音楽祭などで来日した  
ウィーン・フィルの元コンサートマスター  
ウィーン・カイザー弦楽四重奏団で来年公演

東京での演奏会そして鹿児島霧島国際音楽祭のマスタークラスなどのために7月に来日した。「霧島国際音楽祭は今年で6回目の参加です。大きな家族のような素晴らしい音楽祭です。一カ所で多くの音楽家に出会えるのが楽しいですし、コンサートをするだけでなく他の音楽家の演奏を聴けるのがいい。かつてパシフィックミュージックフェスティバル(PMF)にも来ました。

オーケストラのレベルがとて高かったですね。学生たちとプロの音楽家が一緒にオーケストラで演奏したことは面白い経験でした。今でもTシャツを持っていますよ」  
PMFに教授として参加したのはウィーン・フィルのコンサートマスターを務めていた1999年。94年にコンサートマスターに就任した。「雑誌でウィーン・フィルのオー

◎ヴァイオリン

# ダニエル・ゲエデ



デザインを知りました。もちろんベルリン・フィルのことも考えました。しかし、募集の条件を満たしていなかったのです。ウィーン・フィルのコンサートマスターは1年間が試用期間で、3年後にようやく正式に採用が決まります。やつとはんこをもらえるのです(笑)。ムーティやアバドの下でいろいろな経験をしました。ムーティとはソリストとしても協演しました。国立歌劇場でのオペラの演奏も楽しかった。歌手からオペラのエッセンスを勉強しました」

2001年に退団した。「ウィーン・フィルには特別な音楽があると思います。暗く温かく、そして柔らかな。メンバーの国際化をなるべく避けようとしていますが、オーデイションでもウィーン・フィルの特徴に合う人を探します。私自身も適合させようと頑張りました。ある意味頑固なオーケストラだと思っています」  
1年半前に、ウィーン・フィルのメンバーとウィーン・カイザー弦楽四重奏団を立ち上げた。「トリオよりレパートリーが広いですからね。4種類の楽器で音楽を伝えられるのはとてもすてきなことです。シユベルトは大好きで、『死と乙女』は素晴らしい。モーツァルトのカルテットも好きな曲がたくさんあります。ウィーン・フィルの音楽を伝えたい」と話した。



ウィーン・カイザー弦楽四重奏団  
2011年6月8～15日  
紀尾井ホール(東京)  
■問い合わせ:Kトラージング  
☎03-6418-1008